

国際社会の多様性を学び、経済を理解する

永島 山口さんは国際経済学科での学びをどう捉えていますか？

山口 国際経済学科ではミクロ経済学、マクロ経済学をはじめとした基礎的な経済学を学んだ後、学生個人の興味や関心にあわせて、グローバルな課題や世界各地の経済・社会・文化などを学びます。例えば「国際関係論」などでは世界情勢を俯瞰的に学びますが、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカといった地域経済に注目する科目もあります。世界のいろいろな地域の人々の思惑や事情を多面的な視点で捉えられるようになる学科だと思います。

永島 そうですね。本学科も経済学を基礎とするところは、他学科と共通していますが、世界各地の経済、国境を越えた諸問題に関して学べるところが特長です。他にも、情報収集の範囲や発信力を伸ばすため、英語など語学の向上にも力を入れています。経済を理解するためには、歴史・社会・文化的な背景の多様性への理解も重要ですね。

人々に注目し、歴史的に経済を探る

永島 私は近現代イギリスの経済誌・社会史を主な研究テーマとしており、ゼミナールでもイギリスを題材にすることが多いです。今年度は喫茶・飲酒・食事といった身近な消費活動が、歴史的にどう変化しているのかについて議論しましたね。このように過去の歴史を題材にしつつ、現在の経済社会を考えることを目標にしていますが、山口さんは現在何を学んでいますか？

山口 主にイギリス産業革命の時代の庶民層の経済状況について学んでいます。国民の大多数である庶民たちのことは世界史の教科書にはあまり出てきませんが、どんな消費生活を送っていたのかを調べていて、チョコレートが大量生産され価格が手頃となり、一般庶民にも普及したのは、イギリスでは19世紀後半であることを知りました。チョコレートという身近なお菓子から社会や経済のあり方が見えてくる気がして、興味深く研究を続けています。

永島 順調に学びを深められていますね。山口さんのように、歴史をふまえた国際的な視野を持つことは、これからの時代ますます重要になっていくと思います。これから先、この学びをどう活かしていきたいですか？

山口 本学科では正しい情報の大切さと、物事には多面性があることを学んでいます。社会には様々な問題に対して、必ずしも客観的とはいえない情報があります。それらに対して私たちはどう関わればよいのか。目で見て直ぐにわかることだけでなく、他の手段や考え方を探るなど、柔軟に行動できるようにしていきたいです。



「歴史をふまえた国際的な視野が大事になってきます」

永島 剛 教授



3年

山口 玄流 さん

「世界経済を多面的な視野で捉えます」

世界経済の知識と各地域の情勢を学ぶことで、国際的な感覚が身につく